



2020.8.21

最初から落ちに行くビッドの効能

ブリッジでは、基本的にはメークするつもりでビッドします。しかし相手を見殺しにしてはいけません。相手もメークしようとしてくるのです。こちらがオープンしていても相手側にゲームやスラムが出来ることも珍しくありません。相手にゲームが出来る時に、さらに上のビッドをして、ダブルされてもゲームを作られるよりも少ない失点ですむことをサクリファイスと言うことは皆さんご承知でしょう。そしてサクリファイスは相手がゲームビッドしてからすると、相手がゲームビッドするより先にビッドしてしまうプリエンプティブビッドがあります。とくにこのプリエンプティブが重要です。先にビッドしてしまうと、相手はダブルがよいのかさらにかぶせてビッドするのかあるいはパスするのか、いわゆるラストゲスを強いられます。先日の町田BCでのペア戦ですが、自分たち NV 相手 VUL でディーラーの S に座っていてパスすると、左もパスしてパートナーは 1 D オープンしてきました。右手はテークアウトダブルをします。

S : ♠ 654 ♥ Q ♦ K876543 ♣ 104

を持っていたら 5 D と言わねばなりません。理由はまずダイヤモンドがおそらく 11 枚フィットしたこと、弱いこと=すなわち相手は強く、しかも 4 H か 4 S を作られそうであること、少しずつ小出しにして競り上がっていても相手にフィット (メジャーの) を見付けられやすいことから、5 レベルで先にビッドするのが良いからです。なお 6 D というと、6 H か 6 S をビッドされて作られそうなことから 5 レベルにしておくことが適切そうです。実際 4 つのハンドは次ページのようになっていました : E W 側には 6 H がメークします。さらに言えば S は相手 VUL 自分たち NV なので 3 D オープンしたらプリエンプティブビッドの効能がさらに確実だったろうと言えます。

3 D - (P) - 5 D

と E に回ってきた時は 5 レベルになっていたでしょう。するとここでダブルしても、W は 5 H というだけで、まず確実に終わりそうです。

もう 1 つ例を挙げれば横浜 BC 理事長杯で

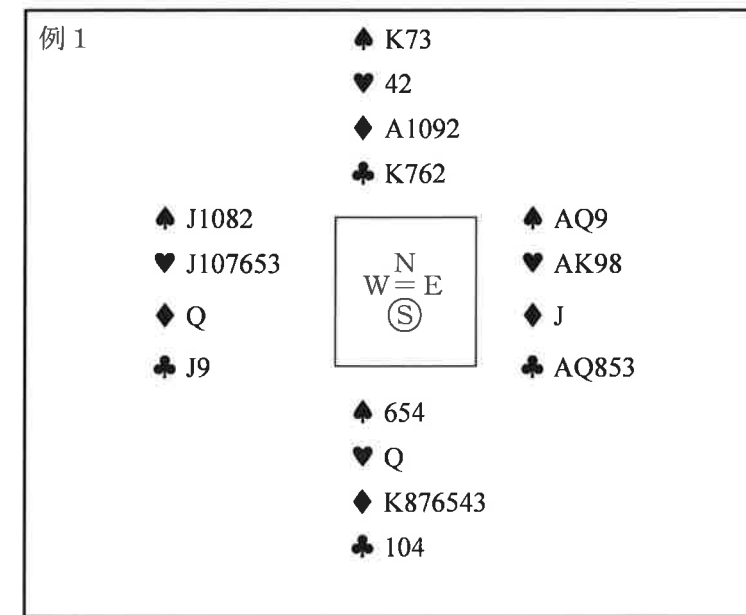
(1 C) - 1 D - (P)

と回ってきて、

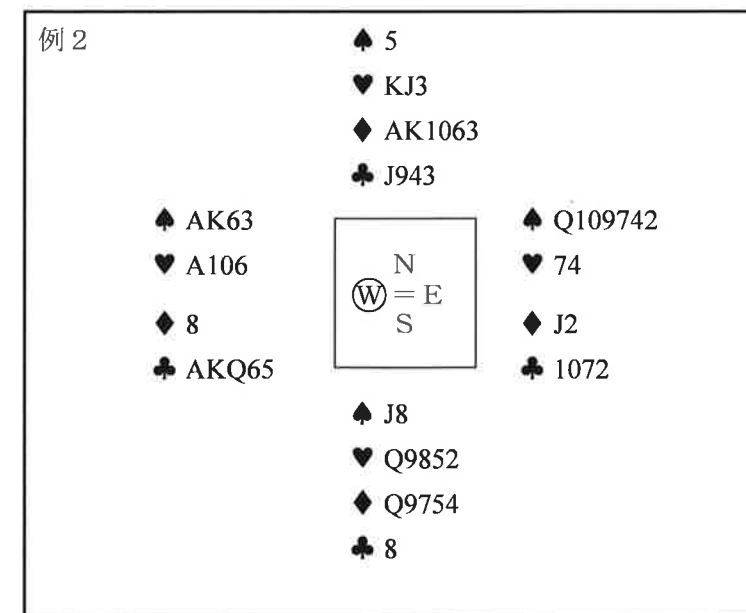
S : ♠ J8 ♥ Q9852 ♦ Q9754 ♣ 8

を持っていました。これも即座に 5 D とレイズしました。オープナーは極めて強くダイヤモンドもシングルトンなのでダブルをします。W は私なら 5 S とビッドしますが、弱気だったオポーネントはパスをしました。1 ダウンでした。これも E W 側に 6 S が簡単にメークします。クラブは 4 - 1 ブレークですが 1 ラフでエスタブリッシュし、エントリーは十分あるので 5 枚目のクラブを取るのに問題ありません。

町田 BC 海の日 STF 戦 (2020.7.23) から



横浜 BC 理事長杯チーム戦 (2020.7.5) から (180° 入れ替えてあります)



どちらのハンドも共通点はこちらが弱い (=相手は強い) ことと、非常によいフィット (10 枚か 11 枚) が見つかったこと、加えて自分たち NV 相手 VUL であることです。実際は例 1 はまず 2 D しか言いませんでした。しかし例 1 は 4 H がすぐに見つかってしまいます。それからおもむろに S は 5 D とサクリファイスに来ました。そして E がまた 5 H と言って終わりました。例 2 では S (私) はすぐに 5 D とビッドして 1 ダウンでしたが、アザーテーブルでは S は 2 D とビッドしたそうです (レディース日本代表のペアですが) どちらもあとからビッドするのではなく、先にビッドしてしまうのがよいのです。もっとも例 2 では E が弱気で、4 D ダブルのままにしてしまいメークされてしまいました。